

## 審査意見への対応を記載した書類（6月）（資料）

【資料 1】リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻カリキュラムマップ .....	p. 2
【資料 2】リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻カリキュラムマップ .....	p. 5
【資料 3】理学療法学専攻における養成人材像、3つのポリシーの関連図 .....	p. 8
【資料 4】作業療法学専攻における養成人材像、3つのポリシーの関連図 .....	p. 9
【資料 5】カリキュラム・ツリー（リハビリテーション学科理学療法学専攻） .....	p. 10
【資料 6】カリキュラム・ツリー（リハビリテーション学科作業療法学専攻） .....	p. 11
【資料 7】学生確保に関するアンケート調査集計結果報告書 .....	p. 12

リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法学専攻  
カリキュラムマップ

〈ディプロマ・ポリシー〉

- DP1. 慈しみの心を持ち、幅広い教養とコミュニケーション力、他者と協調・協働する力を有している。
- DP2. リハビリテーションの概念や身体と心の総合的な理解と疾病並びに障害に関する医学的知識を有し、多職種連携を理解している。
- DP3. 理学療法士としての職業倫理を理解し、長期的予後を見据え、障害発生の予防や対象者の個別性に対応できる理学療法に関する幅広い知識と技術を有している。
- DP4. 知識と技術を統合して、体系的に活用できる力を有している。また、対象者の全身(whole body)、及び全体(急性期から生活期及び活動全体)を診る視点を有している。

●は強く関連するDP、○は関連するDPを示す

科目区分	授業科目	配当年次	単位数		ディプロマ・ポリシーとの関連					
			必修	選択	DP1	DP2	DP3	DP4		
教養基礎科目	科学的思考の	生命の科学	1前		2	●				
		エネルギーのしくみ	1前		2	●				
		情報科学	1前	2		●				
		基礎統計学	2後	2		●				
		医療英文講読	3前	1		●				
	人間と生活	心理学基礎	1前	1		●	○			
		人間関係論	1前	1		●				
		倫理学	1後		2	●				
		教育学	2前	2		●				
		教育心理学	1後		2	●				
		英語Ⅰ	1前	1		●				
		英語Ⅱ	1後	1		●				
		英語Ⅲ	2前		2	●				
		健康科学	2後	1		●	○			
	レクリエーション	1前		1	●					
	社会の理解	生物と環境	1後		1	●				
		現代社会の理解	1前		1	●				
		国際協力論	2前		1	●	○			
		経営学	2前		1	●				
		法学入門	1後		1	●				
		社会福祉学	1前	1		●				
	複合教養	スタートアップセミナー	1前	1		●				
		医療職教養演習	1前	1		●				
	専門科目	専門支持科目 人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	2			●		
			解剖学Ⅱ	1後	1			●		
			解剖学実習	1通	1			●		
			生理学Ⅰ	1前	2			●		
生理学Ⅱ			1後	2			●			
生理学実習			2前	1			●			
運動学総論			1後	1			●			
運動学			2前	2			●			
運動生理学			2後	1			●			
運動学実習			2後	1			●			
人間発達学			1後	1			●			

科目区分		授業科目	配当 年次	単位数		ディプロマ・ポリシーとの関連				
				必修	選択	DP1	DP2	DP3	DP4	
専門支持科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1後	1			●			
		公衆衛生学	2後	1			●			
		臨床心理学	2前	1			●			
		内科学	2前	2			●			
		整形外科学	2前	2			●			
		神経症候学	2前	2			●			
		精神医学	2前	1			●			
		小児科学	2前	1			●			
		リハビリテーション医学	1後	1			●			
		医療安全学	1後	1			●			
		臨床検査・画像診断学	2後	1			●			
		総合リハビリテーション学	3後	1			●	○		
		専門支持科目	福祉と医療の連携	リハビリテーション概論	1前	2			●	○
多職種連携	3後			1			●			
障がい者スポーツ概論	2前			1			○	●		
専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論	1後	2				●		
		理学療法研究法Ⅰ	2通	1				●		
		理学療法研究法Ⅱ	3通	1				●		
		人体触察法実習	1後	1				●		
		臨床運動学実習	3前	1				●		
		運動療法総論	2後	1				●		
		運動療法演習	3後	1				●		
	理学療法管理学	理学療法管理学	3後	1				●		
		理学療法管理学演習	4後	1				●		
	理学療法評価学	検査測定法	2前	2				●		
		検査測定法実習	2後	1				●		
		理学療法評価法	3前	2				●		
		理学療法評価法実習	3後	2			○	●	○	
	理学療法治療学	神経筋障害理学療法治療学	2後	2				○	●	
		神経筋障害理学療法治療学実習	3前	1					●	○
		運動器系障害理学療法治療学	2後	2				○	●	
		運動器系障害理学療法治療学実習	3前	1					●	○
		内部疾患系障害理学療法治療学	3前	2				○	●	
		内部疾患系障害理学療法治療学実習	3後	1					●	○
		小児疾患系障害理学療法治療学	3前	1				○	●	
		小児疾患系障害理学療法治療学実習	3後	1					●	○
		老年期障害理学療法	2後	1					●	
		日常生活活動学	3前	2					●	
		日常生活活動学実習	3後	1					●	
		義肢装具学	3前	2					●	
		義肢装具学実習	3後	1					●	
		物理療法学	3前	2					●	
物理療法学実習		3後	1					●		
臨床理学療法総合演習		3後	1			○		●	○	

科目区分		授業科目	配当年次	単位数		ディプロマ・ポリシーとの関連				
				必修	選択	DP1	DP2	DP3	DP4	
専門科目	地域理学療法学	生活環境論	3前	1				●		
		予防理学療法学	2前	1				●		
		予防理学療法学実習	2通	1				●	○	
		地域理学療法学	3前	2				●		
	専ら基幹科目	総合理学療法学	臨床実習Ⅰ（見学）	1通	1		○		○	●
			臨床実習Ⅱ（地域）	4通	1			○	○	●
			臨床実習Ⅲ（評価）	3後	4			○	○	●
			臨床実習Ⅳ（総合1）	4通	7			○	○	●
			臨床実習Ⅴ（総合2）	4通	7			○	○	●
			臨床セミナー	1通	1		○		●	
			卒業研究	4通	2					●
			総合演習	4通	2		○	○	○	●
	専門発展科目	臨床演習	臨床力アップ演習Ⅰ（病期別）	4後	1			○		●
			臨床力アップ演習Ⅱ（中枢神経系障害）	4後		1			○	●
			臨床力アップ演習Ⅲ（運動器系障害）	4後		1			○	●
			臨床力アップ演習Ⅳ（内部障害）	4後		1			○	●
			臨床力アップ演習Ⅴ（精神障害）	4後		1			○	●
			臨床力アップ演習Ⅵ（発達支援）	4後		1			○	●
			臨床力アップ演習Ⅶ（スポーツ支援）	4後		1			○	●

【資料2】  
資料12

カリキュラムマップ

リハビリテーション学部リハビリテーション学科作業療法学専攻  
カリキュラムマップ

〈ディプロマ・ポリシー〉

- DP1. 慈しみの心を持ち、幅広い教養とコミュニケーション力、他者と協調・協働する力を有している。
- DP2. リハビリテーションの概念や身体と心の総合的な理解と疾病並びに障害に関する医学的知識を有し、多職種連携を理解している。
- DP3. 作業療法士としての職業倫理を理解し、対象者の将来を見据え、障害発生の予防を含め作業療法の幅広い知識と技術を有している。また、対象者の主観を理解できる。
- DP4. 知識と技術を統合して、体系的に活用できる力を有している。また、対象者の全身(whole body)、及び全体(急性期から生活期及び活動全体)を診る視点を有している。

●は強く関連するDP、○は関連するDPを示す

科目区分	授業科目	配当年次	単位数		ディプロマ・ポリシーとの関連					
			必修	選択	DP1	DP2	DP3	DP4		
教養基礎科目	科学的思考の	生命の科学	1前		2	●				
		エネルギーのしくみ	1前		2	●				
		情報科学	1前	2		●				
		基礎統計学	2後	2		●				
		医療英文講読	3前	1		●				
	人間と生活	心理学基礎	1前	1		●	○			
		人間関係論	1前	1		●				
		倫理学	1後		2	●				
		教育学	2前	2		●				
		教育心理学	1後		2	●				
		英語Ⅰ	1前	1		●				
		英語Ⅱ	1後	1		●				
		英語Ⅲ	2前		2	●				
		健康科学	2後	1		●	○			
	レクリエーション	1前		1	●					
	社会の理解	生物と環境	1後		1	●				
		現代社会の理解	1前		1	●				
		国際協力論	2前		1	●	○			
		経営学	2前		1	●				
		法学入門	1後		1	●				
		社会福祉学	1前	1		●				
	複合教養	スタートアップセミナー	1前	1		●				
		医療職教養演習	1前	1		●				
	専門科目	専門支持科目 人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	2			●		
			解剖学Ⅱ	1後	1			●		
			解剖学実習	1通	1			●		
			生理学Ⅰ	1前	2			●		
生理学Ⅱ			1後	2			●			
生理学実習			2前	1			●			
運動学総論			1後	1			●			
運動学			2前	2			●			
運動生理学			2後	1			●			
運動学実習			2後	1			●			
人間発達学			1後	1			●			

科目区分	授業科目	配当年次	単位数		ディプロマ・ポリシーとの関連				
			必修	選択	DP1	DP2	DP3	DP4	
専門支持科目	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1後	1			●		
		公衆衛生学	2後	1			●		
		臨床心理学	2前	1			●		
		内科学	2前	2			●		
		整形外科学	2前	2			●		
		神経症候学	2前	2			●		
		精神医学	2前	1			●		
		小児科学	2前	1			●		
		リハビリテーション医学	1後	1			●		
		医療安全学	1後	1			●		
		臨床検査・画像診断学	2後	1			●		
		総合リハビリテーション学	3後	1				●	○
	専門支持科目	福祉と医療の連携の理念	リハビリテーション概論	1前	2			●	○
多職種連携			3後	1			●		
障がい者スポーツ概論			2前	1			○	●	
専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	1後	2				●	
		臨床運動学	2後	1				●	
		基礎作業学	1後	1				●	
		基礎作業学実習	1後	2				●	
	作業療法管理学	作業療法管理学	3後	1				●	
		作業療法管理学演習	4後	1				●	
	作業療法評価学	作業療法評価法	2前	1				●	
		作業療法評価法実習Ⅰ	2前	1				●	
		作業療法評価法実習Ⅱ	3前	1			○	●	
		身体障害作業評価学	3前	1				●	
		精神障害作業評価学	2後	1				●	
		発達障害作業評価学	3前	1				●	
	作業療法治療学	作業療法研究法	3前	2				●	
		作業治療学理論	2後	1				●	
		身体障害作業治療学Ⅰ	2後	2			○	●	○
		身体障害作業治療学Ⅱ	3前	2			○	●	○
		身体障害作業治療学実習	3前	1				●	○
		精神障害作業治療学	3前	2			○	●	
		精神障害作業治療学実習	3前	1				●	○
		発達障害作業治療学	3後	2			○	●	○
		発達障害作業治療学実習	3後	1				●	○
		高齢期作業療法学	3前	2			○	●	
		日常生活作業学Ⅰ	1後	1				●	
		日常生活作業学Ⅱ	2後	1				●	
		日常生活作業学実習	2後	1				●	○
		高次脳機能障害作業治療学	3前	1			○	●	
		義肢装具学	3前	1				●	
義肢装具学実習		3後	1				●		
臨床作業療法演習	3後	1			○	●	○		

科目区分		授業科目	配当年次	単位数		ディプロマ・ポリシーとの関連			
				必修	選択	DP1	DP2	DP3	DP4
専門科目	地域作業療法学	リハビリテーション関連機器	3後	1				●	
		地域作業療法学	2後	1				●	
		地域作業療法学実習	3前	1		○		●	○
		就労支援学	4前	1				●	
	総合作業療法学	臨床実習Ⅰ（見学）	1通	2		○		○	●
		臨床実習Ⅱ（地域）	2前	1			○	○	●
		臨床実習Ⅲ（評価）	3後	4			○	○	●
		臨床実習Ⅳ（総合1）	4通	8			○	○	●
		臨床実習Ⅴ（総合2）	4通	8			○	○	●
		臨床セミナー	1通	1		○		●	
		卒業研究	4通	2					●
		総合演習	4通	2		○	○	○	●
	臨床演習	臨床力アップ演習Ⅰ（病期別）	4後	1			○		●
		臨床力アップ演習Ⅱ（中枢神経系障害）	4後		1			○	●
		臨床力アップ演習Ⅲ（運動器系障害）	4後		1			○	●
		臨床力アップ演習Ⅳ（内部障害）	4後		1			○	●
		臨床力アップ演習Ⅴ（精神障害）	4後		1			○	●
		臨床力アップ演習Ⅵ（発達支援）	4後		1			○	●
		臨床力アップ演習Ⅶ（スポーツ支援）	4後		1			○	●

【資料 3】

資料 13

理学療法学専攻における養成人材像、3つのポリシーの関連図

養成人材像

ディプロマ・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

アドミッション・ポリシー

建学の精神と教育の理念に則り、養成する人材像として次の4つを掲げます。

多様な社会と対象者に対応できる豊かな人間性と社会性、教養に裏付けされた視野の広い人材

リハビリテーションの概念を理解し、的確に理学療法を展開するために、健康な身体と心を理解した上で疾病並びに障害に関する医学的知識を持ち、チーム医療を実践できる人材

理学療法士としての職業倫理と対象者の個性への対応力を備え、障害発生の予防、最大限の運動機能回復と活動を育む支援、さらに社会参加に繋ぐことができる人材

幅広い対象者、各病期の特徴を理解し、全身 (whole body)、及び全体 (急性期から生活期及び活動全体) を診ることができ、地域の保健・医療・福祉に貢献できる人材

教育理念、養成する人材像に基づき、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーを掲げます。本ディプロマ・ポリシーに基づき、所定の単位を修得し、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士 (理学療法学) を授与します。

DP1. 慈しみの心を持ち、幅広い教養とコミュニケーション力、他者と協調・協働する力を有している。

DP2. リハビリテーションの概念や身体と心の総合的な理解と疾病並びに障害に関する医学的知識を有し、多職種連携を理解している。

DP3. 理学療法士としての職業倫理を理解し、長期的予後を見据え、障害発生の予防や対象者の個性に対応できる理学療法に関する幅広い知識と技術を有している。

DP4. 知識と技術を統合して、体系的に活用できる力を有している。また、対象者の全身 (whole body)、及び全体 (急性期から生活期及び活動全体) を診る視点を有している。

教育課程は、「教養基礎科目」と「専門科目」の2科目区分で構成し、専門科目は、「専門支持科目」、及び「専門基幹科目」、「専門発展科目」に分類し、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーを達成するため、以下に示す方針に基づいて、それぞれの科目を学年進行に合わせて段階的に修得できるよう体系的に編成します。また、教育評価を適切に行います。

CP1. 多様な社会と対象者への対応が求められる医療人として必要な人間、生活、社会等幅広い分野の教養科目を配置する。また、他者と協調・協働するための自己理解やコミュニケーション力を養う授業科目を配置する。

CP2. リハビリテーションの概念を理解し、理学療法の対象となる心身機能と障害の関連を理解するための基礎医学及び臨床医学の授業科目、多職種連携を学ぶ授業科目を配置する。

CP3. 理学療法士の役割を理解し、倫理観と責任ある態度を育むための授業科目を配置する。また、障害発生の予防を含め理学療法の実践及び重複障害に対応するために必要な知識と技術を修得するための授業科目を配置する。

CP4. 地域の保健・医療・福祉における理学療法の実践的な知識と技術、及び対象者の全身 (whole body)、及び全体 (急性期から生活期及び活動全体) を診る視点を学ぶための授業科目を配置する。また、修得した知識・技術・態度を統合し、総合的に活用する力を養うための授業科目を配置する。

(教育方法)  
1. 各授業科目の目的・内容に応じ、学生の主体的、能動的な参加型学習であるアクティブ・ラーニングを取り入れる。

(教育方法)  
2. 学内での検査・測定、評価、障害別等の演習・実習、地域・臨床現場での実習等にて臨床的思考力及び臨床技術の向上のための学習を取り入れる。

(教育評価)  
1. 各科目の成績は学期末に実施される科目試験等にて評価する  
2. GPA、授業評価アンケートへの回答等を基に学生自身による自己評価をする  
3. 4年間の学修成果を臨床実習、総合演習、卒業研究にて評価する

建学の精神である「佛心尽障」及び教育理念に基づき、卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 及び教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

- 【知識・技能】
1. 高等学校の教育内容を幅広く学んでいる。
  2. 医療を学ぶために十分な基礎となる学力を有している。なかでも国語、英語、数学の力を身に付けていることが望まれる。  
(※)国語は対象者とのコミュニケーションにおける理解力・思考力・表現力及び専門的知識を学ぶ上での読解力・理解力、英語は論理的思考力、数学はリハビリテーション上での評価や研究力に繋がる学力と本学では捉えています。

- 【思考力・判断力・表現力等の能力】
1. 自分の考えを他者に伝える判断力・表現力・コミュニケーション能力がある。
  2. 既存の情報や他者の意見を基に、自分の考えを論理的に構築することができる。

- 【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】
1. 慈しみの心を持っている。
  2. 他者と協調・協働し問題解決に取り組むことができる。
  3. 知的好奇心を持って自ら保健・医療・福祉の専門知識を学ぶ意欲がある。

【資料 4】

資料 14

作業療法学専攻における養成人材像、3つのポリシーの関連図

養成人材像

ディプロマ・ポリシー

カリキュラム・ポリシー

アドミッション・ポリシー

建学の精神と教育の理念に則り、養成する人材像として次の4つを掲げます。

多様な社会と対象者に対応できる豊かな人間性と社会性、教養に裏付けされた視野の広い人材

リハビリテーションの概念を理解し、的確に作業療法を展開するために、健康な身体と心を理解した上で疾病並びに障害に関する医学的知識を持ち、チーム医療を実践できる人材

作業療法士としての職業倫理を備え、障害発生の予防及び対象者の個別性に対応した心と身体の一體的な回復と活動を育む支援をし、社会参加に繋ぐことができる人材

幅広い対象者、各病期の特徴を理解し、全身 (whole body)、及び全体 (急性期から生活期及び活動全体) を診ることができ、地域の保健・医療・福祉に貢献できる人材

教育理念、養成する人材像に基づき、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーを掲げます。本ディプロマ・ポリシーに基づき、所定の単位を修得し、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士 (作業療法学) を授与します。

DP1. 慈しみの心を持ち、幅広い教養とコミュニケーション力、他者と協調・協働する力を有している。

DP2. リハビリテーションの概念や身体と心の総合的な理解と疾病並びに障害に関する医学的知識を有し、多職種連携を理解している。

DP3. 作業療法士としての職業倫理を理解し、対象者の将来を見据え、障害発生の予防を含め作業療法の幅広い知識と技術を有している。また、対象者の主観を理解できる。

DP4. 知識と技術を統合して、体系的に活用できる力を有している。また、対象者の全身 (whole body)、及び全体 (急性期から生活期及び活動全体) を診る視点を有している。

教育課程は、「教養基礎科目」と「専門科目」の2科目区分で構成し、専門科目は、「専門支持科目」、及び「専門基幹科目」、「専門発展科目」に分類し、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーを達成するため、以下に示す方針に基づいて、それぞれの科目を学年進行に合わせて段階的に修得できるよう体系的に編成します。また、教育評価を適切に行います。

CP1. 多様な社会と対象者への対応が求められる医療人として必要な人間、生活、社会等幅広い分野の教養科目を配置する。また、他者と協調・協働するための自己理解やコミュニケーション力を養う授業科目を配置する。

CP2. リハビリテーションの概念を理解し、作業療法の対象となる心身機能と障害の関連を理解するための基礎医学及び臨床医学の授業科目、多職種連携について学ぶ授業科目を配置する。

CP3. 作業療法士としての倫理観と責任ある態度を育むための授業科目を配置する。また、障害発生の予防を含めた根拠に基づく作業療法実践のための知識・技術の修得に加え、対象者の主観を捉える力を培うための授業科目を配置する。

CP4. 地域の保健・医療・福祉における作業療法の実践的な知識と技術、及び対象者の全身 (whole body)、及び全体 (急性期から生活期及び活動全体) を診る視点を学ぶための授業科目を配置する。また、修得した知識・技術・態度を統合し、総合的に活用する力を養うための授業科目を配置する。

(教育方法)  
1. 各授業科目の目的・内容に応じ、学生の主体的、能動的な参加型学習であるアクティブ・ラーニングを取り入れる。

(教育方法)  
2. 学内での検査・測定、評価、障害別等の演習・実習、地域・臨床現場での実習等にて臨床的思考力及び臨床技術の向上のための学習を取り入れる。

(教育評価)  
1. 各科目の成績は学期末に実施される科目試験等にて評価する  
2. GPA、授業評価アンケートへの回答等を基に学生自身による自己評価をする  
3. 4年間の学修成果を臨床実習、総合演習、卒業研究にて評価する

建学の精神である「佛心尽障」及び教育理念に基づき、卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 及び教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー) に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

【知識・技能】

- 1. 高等学校の教育内容を幅広く学んでいる。
- 2. 医療を学ぶために十分な基礎となる学力を有している。なかでも国語、英語、数学の力を身に付けていることが望まれる。  
(※)国語は対象者とのコミュニケーションにおける理解力・思考力・表現力及び専門的知識を学ぶ上での読解力・理解力、英語は論理的思考力、数学はリハビリテーション上での評価や研究力に繋がる学力と本学では捉えています。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

- 1. 自分の考えを他者に伝える判断力・表現力・コミュニケーション能力がある。
- 2. 既存の情報や他者の意見を基に、自分の考えを論理的に構築することができる。

【主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】

- 1. 慈しみの心を持っている。
- 2. 他者と協調・協働し問題解決に取り組むことができる。
- 3. 知的好奇心を持って自ら保健・医療・福祉の専門知識を学ぶ意欲がある。

【資料5】  
資料9 カリキュラム・ツリー (リハビリテーション学科理学療法専攻)

DP	DP1. 慈しみの心を持ち、幅広い教養とコミュニケーション力、他者と協調・協働する力を有している。	DP2. リハビリテーションの概念や身体と心の総合的な理解と疾病並びに障害に関する医学的知識を有し、多職種連携を理解している。	DP3. 理学療法士としての職業倫理を理解し、長期的予後を見据え、障害発生の予防や対象者の個性に対応できる理学療法に関する幅広い知識と技術を有している。	DP4. 知識と技術を統合して、体系的に活用できる力を有している。また、対象者の全身 (whole body)、及び全体 (急性期から生活期及び活動全体) を診る視点を有している。												
CP	CP1. 多様な社会と対象者への対応が求められる医療人として必要な人間、生活、社会等幅広い分野の教養科目を配置する。また、他者と協調・協働するための自己理解やコミュニケーション力を養う授業科目を配置する。	CP2. リハビリテーションの概念を理解し、理学療法の対象となる心身機能と障害の関連を理解するための基礎医学及び臨床医学の授業科目、多職種連携を学ぶ授業科目を配置する。	CP3. 理学療法士の役割を理解し、倫理観と責任ある態度を育むための授業科目を配置する。また、障害発生の予防を含め理学療法の実践及び重複障害に対応するために必要な知識と技術を修得するための授業科目を配置する。	CP4. 地域の保健・医療・福祉における理学療法の実践的な知識と技術、及び対象者の全身 (whole body)、及び全体 (急性期から生活期及び活動全体) を診る視点を学ぶための授業科目を配置する。また、修得した知識・技術・態度を統合し、総合的に活用する力を養うための授業科目を配置する。												
	<p>(教育方法) 1. 各授業科目の目的・内容に応じ、学生の主体的、能動的な参加型学習であるアクティブ・ラーニングを取り入れる。                  (教育方法) 2. 学内での検査・測定、評価、障害別等の演習・実習、地域・臨床現場での実習等にて臨床的思考力及び臨床技術の向上のための学習を取り入れる。</p> <p>(教育評価)                  1. 各科目の成績は学期末に実施される科目試験等にて評価する 2. GPA、授業評価アンケートへの回答等を基に学生自身による自己評価をする 3. 4年間の学修成果を臨床実習、総合演習、卒業研究にて評価する</p>															
学期	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
区分	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門
1年次	生命の科学 エネルギーのしくみ 情報科学 心理学基礎 人間関係論 英語 I レクリエーション 現代社会の理解 社会福祉学 スタートアップセミナー 医療職教養演習		倫理学 教育心理学 英語 II 生物と環境 法学入門		解剖学 I 解剖学実習 生理学 I リハビリテーション概論		解剖学 II 解剖学実習 生理学 II 運動学総論 人間発達学 病理学 リハビリテーション医学 医療安全学		臨床セミナー		理学療法概論 人体触察法実習 臨床セミナー		臨床実習 I (見学)		臨床実習 I (見学)	
2年次	教育学 英語 III 国際協力論 経営学		基礎統計学 健康科学		生理学実習 運動学 臨床心理学 内科学 整形外科学 神経症候学 精神医学 小児科学 障がい者スポーツ概論		運動生理学 運動学実習 公衆衛生学 臨床検査・画像診断学		理学療法研究法 I 検査測定法 予防理学療法学 予防理学療法学実習		理学療法研究法 I 運動療法総論 検査測定法実習 神経筋障害理学療法治療学 運動器系障害理学療法治療学 老年期障害理学療法学 予防理学療法学実習					
3年次	医療英文講読						総合リハビリテーション学 多職種連携		理学療法研究法 II 臨床運動学実習 理学療法評価法 神経筋障害理学療法治療学実習 運動器系障害理学療法治療学実習 内部疾患系障害理学療法治療学 小児疾患系障害理学療法治療学 日常生活活動学 義肢装具学 物理療法学 生活環境論 地域理学療法学		理学療法研究法 II 運動療法演習 理学療法管理学 理学療法評価法実習 内部疾患系障害理学療法治療学実習 小児疾患系障害理学療法治療学実習 日常生活活動学実習 義肢装具学実習 物理療法学実習 臨床理学療法総合演習				臨床実習 III (評価)	
4年次											理学療法管理学演習		臨床実習 II (地域) 臨床実習 IV (総合 1) 臨床実習 V (総合 2) 卒業研究 総合演習		臨床実習 II (地域) 臨床実習 IV (総合 1) 臨床実習 V (総合 2) 卒業研究 総合演習 臨床力アップ演習 I ~ VII	

【資料6】  
資料10 カリキュラム・ツリー (リハビリテーション学科作業療法学専攻)

DP	DP1. 慈しみの心を持ち、幅広い教養とコミュニケーション力、他者と協調・協働する力を有している。	DP2. リハビリテーションの概念や身体と心の総合的な理解と疾病並びに障害に関する医学的知識を有し、多職種連携を理解している。	DP3. 作業療法士としての職業倫理を理解し、対象者の将来を見据え、障害発生の予防を含め作業療法の幅広い知識と技術を有している。また、対象者の主観を理解できる。	DP4. 知識と技術を統合して、体系的に活用できる力を有している。また、対象者の全身 (whole body)、及び全体 (急性期から生活期及び活動全体) を診る視点を有している。												
CP	CP1. 多様な社会と対象者への対応が求められる医療人として必要な人間、生活、社会等幅広い分野の教養科目を配置する。また、他者と協調・協働するための自己理解やコミュニケーション力を養う授業科目を配置する。	CP2. リハビリテーションの概念を理解し、作業療法の対象となる心身機能と障害の関連を理解するための基礎医学及び臨床医学の授業科目、多職種連携について学ぶ授業科目を配置する。	CP3. 作業療法士としての倫理観と責任ある態度を育むための授業科目を配置する。また、障害発生の予防を含めた根拠に基づく作業療法実践のための知識・技術の修得に加え、対象者の主観を捉える力を培うための授業科目を配置する。	CP4. 地域の保健・医療・福祉における作業療法の実践的な知識と技術、及び対象者の全身 (whole body)、及び全体 (急性期から生活期及び活動全体) を診る視点を学ぶための授業科目を配置する。また、修得した知識・技術・態度を統合し、総合的に活用する力を養うための授業科目を配置する。												
GP	(教育方法)1. 各授業科目の目的・内容に応じ、学生の主体的、能動的な参加型学習であるアクティブ・ラーニングを取り入れる。 (教育方法)2. 学内での検査・測定、評価、障害別等の演習・実習、地域・臨床現場での実習等にて臨床的思考力及び臨床技術の向上のための学習を取り入れる。 (教育評価) 1. 各科目の成績は学期末に実施される科目試験等にて評価する 2. GPA、授業評価アンケートへの回答等を基に学生自身による自己評価をする 3. 4年間の学修成果を臨床実習、総合演習、卒業研究にて評価する															
学期	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
区分	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門	教養基礎	専門
1年次	生命の科学 エネルギーのしくみ 情報科学 心理学基礎 人間関係論 英語 I レクリエーション 現代社会の理解 社会福祉学 スタートアップセミナー 医療職教養演習		倫理学 教育心理学 英語 II 生物と環境 法学入門		解剖学 I 解剖学実習 生理学 I リハビリテーション概論		解剖学 II 解剖学実習 生理学 II 運動学総論 人間発達学 病理学 リハビリテーション医学 医療安全学		臨床セミナー		作業療法概論 基礎作業学 基礎作業学実習 日常生活作業学 I 臨床セミナー		臨床実習 I (見学)		臨床実習 I (見学)	
2年次	教育学 英語 III 国際協力論 経営学		基礎統計学 健康科学		生理学実習 運動学 臨床心理学 内科学 整形外科学 神経症候学 精神医学 小児科学 障がい者スポーツ概論		運動生理学 運動学実習 公衆衛生学 臨床検査・画像診断学		作業療法評価法 作業療法評価法実習 I		臨床運動学 精神障害作業評価学 作業治療学理論 身体障害作業治療学 I 日常生活作業学 II 日常生活作業学実習 地域作業療法学		臨床実習 II (地域)			
3年次	医療英文講読						総合リハビリテーション学 多職種連携		作業療法評価法実習 II 身体障害作業評価学 発達障害作業評価学 作業療法研究法 身体障害作業治療学 II 身体障害作業治療学実習 精神障害作業治療学 精神障害作業治療学実習 高齢期作業療法学 高次脳機能障害作業治療学 義肢装具学 地域作業療法学実習		作業療法管理学 発達障害作業治療学 発達障害作業治療学実習 義肢装具学実習 臨床作業療法演習 リハビリテーション関連機器				臨床実習 III (評価)	
4年次									就労支援学		作業療法管理学演習		臨床実習 IV (総合1) 臨床実習 V (総合2) 卒業研究 総合演習		臨床実習 IV (総合1) 臨床実習 V (総合2) 卒業研究 総合演習 臨床力アップ演習 I～VII	

愛知医療学院大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科  
理学療法学専攻・作業療法学専攻  
(仮称・令和6年4月開設予定・設置認可申請中)

学生確保に関するアンケート調査  
集計結果報告書

令和5年6月26日

## 1. 入学意向アンケート調査の概要

調査の目的	愛知医療学院大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻・作業療法学専攻（仮称・令和6年4月開設予定・設置認可申請中）（以下、「本学」という）の設置認可申請に係る学生確保の見通しの統計資料とするため、本学保有名簿のうち、令和6年度に進学予定の高校生等の卒業後の進路、進学意識、入学意向などを把握することを目的にアンケート調査を実施。
調査期間	令和5年6月9日～令和5年6月25日
調査方法	本学の大学案内とアンケート調査回答用のGoogleFormのQRコードを記載した用紙を郵送。
調査対象	<p>本学ホームページや進学情報サイト等で本学の情報を開示した令和5年1月からの本学への資料請求者、進学相談会接触者、来校者のうち、令和6年度に進学予定の方（1,046件）を対象に実施。</p> <p>&lt;県別対象者&gt;</p> <p>愛知県 609件          岐阜県 139件          三重県 97件          長野県 15件          静岡県 121件          その他 65件</p>
主要調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回答者の所在地</li> <li>・ 希望進路</li> <li>・ 興味のある学問分野</li> <li>・ 受験意向</li> <li>・ 希望する入学試験</li> <li>・ 入学意向</li> </ul>
発送数・回収状況	<p>アンケート調査用紙発送数 1,046件</p> <p>アンケート調査用紙回収状況 198件（回収率18.9%）</p>
調査実施機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケート調査用紙の発送・回収</li> <li>・ アンケート調査用紙の集計</li> </ul> <p>学校法人佑愛学園</p>

## 2. 入学意向アンケート調査の結果

問1【居住地】	選択肢	回答数	構成比
あなたが住まいの地域をお答えください。1つだけマークしてください。	愛知県	128	64.6%
	岐阜県	34	17.2%
	三重県	27	13.6%
	長野県	1	0.5%
	静岡県	3	1.5%
	その他	5	2.5%
	計	198	100.0%

問2【進学意向】	選択肢	回答数	構成比
あなたは、現在どのような進路に進みたいと思っていますか。あてはまるもの <u>すべて</u> を選択してください。	大学進学	191	96.5%
	短期大学進学	36	18.2%
	専門学校進学	59	29.8%
	就職	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	計	198	100.0%

問3【興味のある分野】	選択肢	回答数	構成比
あなたは、現在どのような分野に興味がありますか。あてはまるもの <u>すべて</u> を選択してください。	リハビリテーション（理学療法・作業療法）	186	93.9%
	看護	17	8.6%
	医・歯・薬	5	2.5%
	医療技術（救急救命・臨床検査等）	20	10.1%
	心理	15	7.6%
	福祉・介護	20	10.1%
	その他	12	6.1%
	計	198	100.0%

問4【受験意向】	選択肢	回答数	構成比
あなたは、愛知医療学院大学を受験したいと思いますか。1つだけマークしてください。	ぜひ受験したい	74	37.4%
	受験したい	110	55.6%
	受験しない	14	7.1%
	計	198	100.0%

(問4で「ぜひ受験したい」「受験したい」と回答いただいた方へ)

問5【希望する入学試験】	選択肢	回答数	構成比
希望する入学試験を <u>すべて</u> 選択してください。	総合型選抜	110	59.8%
	学校推薦型選抜(指定校)	108	58.7%
	学校推薦型選抜(公募制)	100	54.3%
	社会人選抜	1	0.5%
	一般選抜	80	43.5%
	大学入学共通テスト利用選抜	35	19.0%
	まだ決めていない	23	12.5%
	計	184	100.0%

問6【入学意向】	選択肢	回答数	構成比
あなたは、愛知医療学院大学の入学試験に合格した場合、入学したいと思いますか。あてはまるもの <u>ひとつ</u> を選んで回答してください。	作業療法学専攻に入学したい	71	38.6%
	理学療法学専攻に入学したい	108	58.7%
	入学を希望しない	5	2.7%
	計	184	100.0%

(愛知医療学院大学(仮称)のアンケート調査について)

問7	選択肢	回答数	構成比
あなたは愛知医療学院大学(仮称)のアンケート調査に回答したことがありますか。1つだけマークしてください。	はい	26	13.1%
	いいえ	172	86.9%
	計	198	100.0%

クロス集計①【問2「大学進学」かつ問3「リハビリテーション」選択ベースの受験意向・入学意向】

		調査数	問6 入学意向 【問2「大学進学」問3「リハビリテーション」選択ベース】			
			作業療法学専攻に 入学したい	理学療法学専攻に 入学したい	入学を 希望しない	回答無し
全体		181	70	106	2	3
問4 受験意向	ぜひ受験したい	72	31	41	0	0
	受験したい	106	39	65	2	0
	受験しない	3	0	0	0	3

クロス集計②【問2「大学進学」かつ問3「リハビリテーション」選択ベースの受験意向・希望する入学試験】

		調査数	問5 希望する入学試験 【問2「大学進学」問3「リハビリテーション」選択ベース】			
			総合型選抜 学校推薦型選抜（指定校） 学校推薦型選抜（公募制） のいずれかを選択	総合型選抜 学校推薦型選抜（指定校） 学校推薦型選抜（公募制） 非選択のうち、 一般選抜 大学入学共通テスト利用選 抜のいずれかを選択	まだ決めていな いのみを選択	回答無し
全体		181	152	13	13	3
問4 受験意向	ぜひ受験したい	72	72	0	0	0
	受験したい	106	(A) 80	(B) 13	13	0
	受験しない	3	0	0	0	3

クロス集計③【クロス集計② (A) + (B) の入学意向】

		調査数	問6 入学意向 【クロス集計② (A) + (B) 選択ベース】		
			作業療法学専攻に 入学したい	理学療法学専攻に 入学したい	入学を 希望しない
受験したい		93	38	54	1

### 3. (資料) 入学意向アンケート調査 アンケート用紙

(次ページ以降 合計5ページ)

## 「愛知医療学院大学(仮称)」に関するアンケートご協力をお願い

【対象:令和6(2024)年度 進学予定の皆様】

学校法人佑愛学園は、令和6(2024)年4月に愛知医療学院短期大学リハビリテーション学科を改組し、「愛知医療学院大学(仮称、以下省略)リハビリテーション学部リハビリテーション学科」の開学を予定しています。なお、入学定員は理学療法学専攻各45名・作業療法学専攻35名です。

このアンケート調査は、令和5年1月以降に「愛知医療学院短期大学」または「愛知医療学院大学」へ資料請求、来校、進学相談会での相談等をいただいた方で、「愛知医療学院大学」の開学予定年度に進学時期を迎える方々に現在の進路状況について確認するための参考資料とさせていただくものです。

同封の大学案内をご参考にしていただき、アンケート調査へのご協力をお願いいたします。

※このアンケート調査結果は、「愛知医療学院大学」の設置認可申請に係る統計資料としてのみ用い、個人を特定することや、その他の目的に使用、転用することは一切ありません。

### 【アンケート回答方法】

アンケート回答目安時間:1~2分程度

インターネットに接続可能なお手持ちの携帯電話またはタブレット等で下記のQRコードを読み込んでいただき、表示される設問にご回答をお願いいたします。QRコード下のURLを直接ご入力いただいてもかまいません。



<https://forms.gle/o4Nd4UhpLnS3WzPT8>

### 【アンケート回答期限】

令和5年(2023年)6月25日(日)締切

本アンケートに関してご不明な点等ございましたら、下記までお問い合わせください。

### 【お問い合わせ先】

学校法人佑愛学園

愛知医療学院大学(仮称) 大学設置準備室

TEL:0120-25-3311

Mail:shougai@yuai.ac.jp

# 「愛知医療学院大学（仮称）」に関するアンケート調査

このアンケート調査は、「愛知医療学院大学」の開学予定年度に進学時期を迎える方々に現在の進路状況について確認するための参考資料とさせていただきます。

※このアンケート調査結果は、「愛知医療学院大学」の設置認可申請に係る統計資料としてのみ用い、個人を特定することや、その他の目的に使用、転用することは一切ありません。

\* 必須の質問です

1. あなたがお住まいの地域をお答えください。 \*

1つだけマークしてください。

- 愛知県  
 岐阜県  
 三重県  
 長野県  
 静岡県  
 その他

2. あなたは、現在どのような進路に進みたいと思っていますか。あてはまるものすべてを選択してください。 \*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 大学進学  
 短期大学進学  
 専門学校進学  
 就職  
 その他

3. あなたは、現在どのような分野に興味がありますか。あてはまるものすべてを選択してください。 \*

当てはまるものをすべて選択してください。

- リハビリテーション（理学療法・作業療法）  
 看護  
 医・歯・薬  
 医療技術（救急救命・臨床検査等）  
 心理  
 福祉・介護  
 その他

4. あなたは、愛知医療学院大学を受験したいと思いますか。 \*

1つだけマークしてください。

- ぜひ受験したい 質問 5 にスキップします  
 受験したい 質問 5 にスキップします  
 受験しない 質問 7 にスキップします

5. 希望する入学試験をすべて選択してください。\*

当てはまるものをすべて選択してください。

- 総合型選抜
- 学校推薦型選抜（指定校）
- 学校推薦型選抜（公募制）
- 社会人選抜
- 一般選抜
- 大学入学共通テスト利用選抜
- まだ決めていない

6. あなたは、愛知医療学院大学の入学試験に合格した場合、入学したいと思いますか。\*  
あてはまるものひとつを選んで回答してください。

1つだけマークしてください。

- 作業療法学専攻に入学したい
- 理学療法学専攻に入学したい
- 入学を希望しない

#### 愛知医療学院大学（仮称）のアンケート調査について

7. あなたは愛知医療学院大学（仮称）のアンケート調査に回答したことがありますか。\*

1つだけマークしてください。

- はい
- いいえ

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム



自分の未来が見えてくる

# OPEN CAMPUS 2023

事前予約制  
入場無料

■オープンキャンパス日程

4.29 (Sat) 5.21 (Sun) 6.18 (Sun) 7.16 (Sun) 7.30 (Sun) 7.31 (Mon)  
8.20 (Sun) 9.10 (Sun) 9.24 (Sun) 10.14 (Sat) [開催時間]13:00~16:00

■学祭とミニオープンキャンパス 11.11 (Sat)

連絡先 学祭課 1階11番のブースをお申込みの方は、オープンキャンパスまたは個別学校説明会への申込みが必要となります。

ご予約お申し込みはこちら

TEL 0120-25-3311

ホームページ URL <https://www.yuai.ac.jp>



学校法人佑愛学園  
愛知医療学院大学  
〒462-0931 愛知県津島市一丁目519番地  
TEL 052-409-3311 (代) E-mail [acch@yuai.ac.jp](mailto:acch@yuai.ac.jp)  
HP <https://www.yuai.ac.jp>



4年後の私へ。

2024年4月  
愛知医療学院短期大学は  
4年制大学へ移行します。  
(卒業認可可決済)  
1階11番のブースをお申込みの方へ、ご案内いたします。

学校法人 佑愛学園  
愛知医療学院大学  
リハビリテーション学部  
リハビリテーション学科  
●理学療法専攻 ●作業療法専攻



## 2024年 愛知医療学院短期大学は 4年制大学へ

リハビリテーション専門校として、  
40年以上の実績を積み重ね、  
今まで多くの卒業生を輩出してきました。  
これから、4年制大学としてさらに進化し  
専門知識と技術を習得したチーム医療を実践できる  
"リハビリのプロ"を地域社会に送り出していきます。

### 生きた学びの場を提供し、リハビリのプロを育てます

医療の現場では、リハビリテーションの果たす役割が改めて認識される以前にも増して重要視されるようになってきています。地域におけるリハビリテーションに加え、注目されてきているのが、医師の急性期から開始するリハビリテーションの重要性です。病状等の進展が速い場合は科手術前の前後2日間、発熱やベッド上安静が続くことで、その後の運動機能や精神機能、さらには生命予後に至るまで様々な影響が現れることがわかってきます。これを防ぐためには急性期からの体系的なリハビリテーションが欠かせません。また、現代の日本は超高齢社会です。複数の疾患をかかえた患者さんも増えてきていることから、全身(whole body)を診る視点が必要となります。そのためには、複数の医師や看護師・介護士など多職種が参加するチームの中に理学療法士・作業療法士がリハビリテーション診断の役割から参加することが必須です。愛知医療学院大学は、これまで40年間の歴史を重ねてきた実績を継承し、2024年4月の開学を予定しています。これを機会に、愛知医科大学との包括連携協定を締結しました。これまでの地域に根差した官学連携、多世代交流の強みに加え、最先端医療、チーム医療を実践している愛知医科大学病院での臨床実習を通じて「最新の医療ニーズに対応できる質の高い理学療法士・作業療法士の育成」を目指します。



学長 根尾 和久  
愛知医療学院短期大学 学長  
愛知医科大学名誉教授

### 短期大学から4年制大学へ

愛知医療学院短期大学は、40年に及ぶリハビリテーション教育を積み重ね、2024年4月にその長い歴史と実績を継承した4年制大学「愛知医療学院大学(仮称)」へ移行します。建学の精神である「佛心尽障」に則り、社会的知識、基礎的・専門的医療知識を提供し、障がいや有する人々との心と身体を支え、生き生きとした人生の実現を支援できる理学療法士・作業療法士の養成を目指します。

#### 建学の精神

佛心尽障 知恵と慈しみの心を持って  
障がいや有する人々への心を広げ支える

#### 教育理念

愛知医療学院大学は、  
建学の精神である「佛心尽障」に則り、  
社会的知識、基礎的・専門的医療知識を提供し、  
障がいや有する人々との心と身体を支え、生き生きとした  
人生の実現を支援できる人材の養成を目指す。

#### 本学のあゆみ

- 1982年4月 専門学校 愛知医療学院 開校
- 2008年4月 愛知医療学院短期大学開学
- 2010年4月 愛知医療学院短期大学専攻科
- 2010年4月 リハビリテーション科学専攻を設置
- 2014年6月 「附属ゆうあいリハビリクリニック  
ゆうあいダイアセセンター」開設
- 2020年4月 「附属ゆうあいこども園」開園
- 2024年4月 愛知医療学院大学開学(予定)

創立以来  
(2023年3月まで)の  
療法士輩出数 **2,014**名  
理学療法士 1,302名 作業療法士 712名

#### 愛知医療学院大学の3つのポイント

- 01 大学病院と連携した  
急性期への対応と  
チーム医療実習  
愛知医科大学の大学附属  
病院に、先駆的かつ  
入浴施設やゴール23診療室  
備える大学病院での実習  
で、急性期にも対応できる  
実践知識・対応力が高い  
療法士の育成が狙い。
- 02 小児期から高齢期まで  
幅広い世代と  
交流できる教育環境  
継続する「附属ゆうあいこ  
ども園」の実習や障がい児  
施設での実習や障がい児  
が居る大学病院での実習に  
加えて、幅広い世代との  
交流の場が豊富。
- 03 40年にわたる  
伝統と実績  
創立以来200年以上の卒業  
生による信頼とネットワークが  
築かれており、豊富な臨床  
実習機会に繋がっています。  
また、伝統教育で培われて  
いる倫理観や社会貢献心、  
国家資格取得への意気込み。

